



もり はるし 議員
森 治史 議員

職員採用試験

透明性は大事

当然必要と認識

問 県外で、地方公務員募集の定数割れを問題としたテレビニュースがあった。町の採用試験では、試験用紙は県から送られたものを当日会場で開封して配り、終了後、直ちに回収し採点のために県へ送られると認識をしてい

る。平成27年9月議会の質問への答弁では、直接試験を民間業者にトータル的に委託に出せないか検討するとあったがどうなっているのか。透明性を疑っているのではないが、住民の中には不透明ではとの声もある。町外から人事経験者等を入れるなどの方法を実施することで住民に理解されると思うが。

答 大西町長

平成29年度の採用募集の申し込みは58名で受験者50名であった。事務職受験者の推移は平成27年度36名、28年度28名、29年度21名と年々減少傾向にあり危惧している。透明性は当然必要と認識している。外部の人事専門の民間業者の検討もしたが少数募集ではコストの割にメリットが少ないので取り入れていない。優秀な人材確保に向けて四国内の大学全てに募集案内を出すなどを実施している。

校庭の樹木

伐採の責任と費用は

委員会が認め 予算で

問 住民の方が、「学校から帰った孫が『校庭東(入野小)の台湾楓や銀杏の木が切られた。校長先生は毛虫と蜂の巣があり、皆の安全のために話したけど、僕は可哀想で涙が出そうになった』と話

生命の大切さを教える場ではないかと疑問を抱く住民もいる。学校は生徒、保護者、地区との十分な話し合いの必要があったのではないか。

答 坂本教育長

昨年7月下旬に楓にスズメ蜂の巣が分かり、委員会の方で除去した。

その後、十数本の楓に毛虫が大量発生し、消毒では効果がなかった。

最近では毛虫や木の実でアレルギー反応を起こす生徒もいて、学校長が記録文書を調べ、先の校長に確認を取り、学校づくり推進委員会にも聞き、記念樹でないことを確認した。その上でPTA会長に相談し承諾を得たので教育委員会が伐採を認め、予算で対応した。

また、「運動会の日には楓の下で、そつと我が子の成長を見守っている保護者を見かけたその場所がなくなつたのは残念だ」との声も聞く。

長年生徒たちを見守り続けた木の伐採の責任はどこにあり、費用はどこから出たのか。

また、木も昆虫(害虫)も生き物であり、学校は基本的な考えは、記念樹でない限り木や支障木伐採は学校判断を優先するので、住民の意見を聞くことにはならない。



伐採した後の切株